

令和7年度学校だより

学校教育目標 自主 責任 明朗

キャッチフレーズ 夢・自信・誇り



開校46年目

六中だより 5月号

〒352-0023 埼玉県新座市堀之内3-11-1

TEL 048-478-2764 FAX 048-482-0136

HP <https://j-dairoku-c-niiza.edumap.jp>

→第六中HP→



～「夢・自信・誇り」を育む学校を目指して～
「自信」を育むために

校長 中島 豊

新年度が始まり、もう少しでひと月が経とうとしています。この1か月、時々校内を巡回し、授業中や放課後の様子を見ていますが、生徒たちが元気よく、前向きに学校生活を送っている姿を多く目にします。その様子は、学校のホームページ「六中アルバム」にアップしていますので、ぜひご覧ください。

さて、先月は第六中学校のキャッチフレーズ「夢・自信・誇り」のうち「夢」についてお話ししました。今回は「自信」について書こうと思います。

中学生の時期は、自分自身の価値を見出し、将来に向けての道を模索する重要な時期です。自信を持つことは、困難に立ち向かう力を育み、失敗を恐れず挑戦する意欲を高めます。

生徒たちには「『自信』を持つために、今、しっかりと『自分』をつくっていこう！」と伝えたいと思っています。「自信」や「自分」とは、これまでの人生の積み重ねの上にあるものですから、漫然と日々を過ごしていくには自信を持つことはできません。若いうちは失敗をしても良いのではないかでしょうか。発明家のトマス・エジソンは「私は失敗したことがない。ただ、1万通りの、うまく行かない方法を見つけただけだ。」という言葉を残しています。前向きに挑戦した結果であれば、どんな結果であっても、それは失敗ではないかもしれません。

また、子供たちが自信を持つためには、大人たちの温かい励ましが大切です。勉強であれ、何であれ、子供の成果に対して否定的なリアクションだけを返していたのでは、「自信」は育ちません。自己肯定感は下がるばかりです。

ただ、親としては難しいところですね。私自身、娘がテストの結果を持ってきたときのことを振り返ってみると、「〇〇がダメだったね」や「〇〇ができるといいなあ」と親の「欲」が漏れ出て、結局プレッシャーをかけているような……（ので、最近は点数が良くないとテストを見せるのを嫌がります）。

やはり、子供たちは、肯定的なフィードバックを受けることで、自信を育みます。成功体験を積み重ねることで、自己肯定感が高まります。「自分はダメだ」と自己肯定感が低いまま生きる人生は不幸な人生だと私は思います。

数十年前、私が教育実習でお世話になった学校の副校長先生から次のように言われたことを、今でも覚えています。

「『SODATERU（育てる）』ことは『ODATERU（おだてる）』ことである。」

教育に携わって数十年たった今も、この言葉は真理だと思っています。

第六中学校では、子供たちが自信を持って学び、成長できるよう、これからも力を尽くしてまいります。